



異人館物語



連載第三話 《ヘルン旧居の巻》 2

小泉八雲と神戸

小山 牧子 え・石 阪 春 生



LAFCADIO
HEARN

ラフカディオ・ハーンは、一八〇五年六月、東欧ギリシャのイオニア群島の中にあるレフカディオ島で生まれた。彼のファーストネームは、この島にちなんでラフカディオとつけられたのである。彼の父、チャールズ・ブッシュ・ハーンは軍医で、由緒ある家に生まれたアイルランド人であり、母ローザ・テッシマは、素姓のあきらかでないギリシャ女であった。

ハーンは、彼の父がイオニア群島に軍医として勤務中土地の女ローザと結ばれて生まれたのである。

しかし、ハーンが生まれてすぐ、ハーンの家は家族を残して、単身新しい任地に出むいてしまった。残された母ローザは生活に困り、ハーンをつれてアイルランドの夫の生家に身を寄せることになった。

ローザは、夫が不在のダブリンの古い館で、勝手の違うしきたりに堪えて待った。しかし、遠い任地にあつてハーン之父のローザへの愛は冷えてしまつていた。気むずかしい姑や小姑にかこまれ、ひたすらに身をちぢめ待

ち続けていたローザの前につきつけられたのは、一片の離婚書類であつた。仕方なく、ローザは夫の生家にハーンを残して、淋しくギリシャに帰つていった。

それ以後、ハーンは一度も母ローザに会つていない。ローザは、ギリシャに帰つて一年後、愛児に会わせてほしいと再びダブリンの館をたずねてきたが、ハーン家は、それさえも許さなかつた。

ローザと離婚したのち、ハーンの家はクリミア戦争に出征した帰途、スエズで死亡。ハーンは三才で孤児同然の身の上になった。消息さえもつかぬ母と、さだかに顔もおぼえていない父。成長してから父について話すと、きハーンの顔に一瞬、憎悪のひらめきがよぎつたものがある。しかし、母について語るとき、ハーンの顔はかぎりなくやさしい哀しみをたたえた表情になった。

「私は、肉体的にも精神的にも父に似たところはない。私によいところがあるならば、それは母の賜物である。私はひとかどの富よりも、母の一枚の肖像がほしい」

後年、ハーンは母についてそのように語り、小泉セツには、「いかに可哀そうなママさんでした。不幸なママさんでした。気の毒な女でしたねえ」と、口ぐせのように云ったものであった。

あわれにやつれた背を見せて、ヒースの茂みのむこうに消えていった母。つま先立って古い館の窓にばかり母を見送った三才のハーンであった。それ以来、母は若くやさしい女としてハーンの胸に宿りつづけている。

四才になったとき、ハーンは財産家で子供のいない未亡人の大叔母、サリー・ブレイネンに引き取られ、愛育されることになった。ハーンは、この大叔母の保護のもとにイギリスの一流校に入学し、のびのびとした少年時代を過ごすことができた。しかし、彼が十六才になったときサリー・ブレイネンの破産にあい、ハーンの人生は、大きく変った。ハーンの苦難と放浪の人生がはじまったのだ。

カレッジを中退して、フランスから新しい天地をもとめてアメリカへ。その日のパンだけを求めてさまよう生活であった。行商人、会社書記、電報配達人、ホテル・ボーイ、その他あらゆる仕事を転々とした。人間以下の生活であった。彼の唯一のなぐさめは、公立図書館の堅い椅子に坐り、本をむさぼり読み、ひととき生活の苦しみを忘れることであった。

二十四才、ハーンはやつと知的職業人として浮かびあがった。文筆の才能をみとめられ、新聞記者としての仕事を始めたのである。そして、日本へやってくるまでの十五年、シンシナティからニュー・オルリアンズへ、そしてニューヨークへと住みやすい場所を求めて転々と移り変りながら、文筆活動をつづけてきたのであった。

ハーンには、ひと所に長く住みつづけることに堪えられない習癖のようなものがあつた。ニューヨークの摩天楼の間をさまよいながら、ハーンの心はいつも旅について夢想していた。どこか遠くへ——。アメリカの生活は索漠として、人は孤独でありすぎる。

アメリカでの生活で気持がすんだハーンは、風物の美しさだけではなく、人情のこまやかな未知の国々にかぎらないあこがれを抱いたのである。

一八九〇年、四十才でハーンは日本の土を踏んだ。

松江での一年、ハーンは幸福であった。人々はこまやかな愛情にあふれ、風物はこの上なく牧歌的で美しかった。しかしいま、日本に来て四年、神戸の街でハーンは日本の生活に倦みはじめていることを感じた。

神戸を去り隠岐の島で暮らすことは、ひとときの慰めにはなろう。しかし、それがいつまで続くであろうか。そのような隠者的な生活は、これから立派に育てあげねばならない一雄の教育のためによくないことはわかっている。そして、妻のセツも、心の中では決して隠岐の島に住むことを望んでいないことを、ハーンはよく知っている。

ハーンは、過ぎてきた自分の人生をふり返って考えにふけた。二、三年を周期に転々と住む場所を変え、新しい生活を求めてさまよった青春の日々。松江はすばらしい街であったが、あまり寒さが身にこたえるので南国熊本に移り、熊本では、がさつな九州人の氣質が性に合わず神戸に移った。どの土地でも、しばらく住んでいると不都合なことが目につきはじめる。このまま移って住めば、早晚、日本から離れてしまうことにもなりかねないだろう。

ハーンは嘆息した。

「ババさん。外へ出て下され。美しい夕焼けのあります」
一雄を抱いて戸口に立っていたセツが、ハーンに呼びかけた。

どこの街に住んでも、夕暮れの風景だけは、同じように美しいものだ。太陽がなだらかな起伏でこの街の西をかこんでいる山の端に沈み、山々の景が紫紺色にこの街全体を閉ざそうとしている。そして、西の空全体が、燃えるような夕焼けであった。

山腹につらなり、黒々と樹木がかさなり合っている生

田の森から飛び立ったカラスの群れが、羽ばたきの音を地上に残しながら、ゴマ粒のような黒点になって、あかかと燃える夕焼け空に吸いこまれるように消えてゆく。

ハーンは、しばし言葉もなく立ちつくした。

この上もなく静かに一日が暮れようとしている。

その時、ハーンは、どこからか三味線を爪弾くかすかな音が流れてくるのに気づいた。

「ママさん。あれは何ですか？」

「門づけ……と思うです」

「門づけ？」

「そうです。家の戸口に立って唄を唄って、ほんの少しお金もらって歩きます」

ハーンは、なおも耳を澄ませ、かすかな音曲に聞き入った。

「哀しいミュージックですね。私、それ近くで聞くこと願うです」

早速、附近を流していた門づけの女が呼ばれた。女は若い頃に抱瘡を病んだのであろう。醜い顔がいつそう醜

く、百姓女のような着物を着て、頭に青い手ぬぐいをかぶっている。そして盲目のため、七、八才の男の子に手を引かれてハーンの家の前にやってきた。

やがて、ハーンの家近くに住む物見高い連中が集まり門づけの親子のまわりに小さな円陣ができ、女はハーンの家入口の階段に坐って、三味線で伴奏を弾きはじめた。不格好な唇からは奇跡のように美しく澄んだ声が流れた。もの哀しい旋律は、夕暮れのしじまをぬって宇宙の底知れぬ深みへと流れてゆく。

それは、古い心中話を唄にしたもので、当時の民衆に愛唱されていたものであった。

門づけの親子のまわりに集まった人々の目に涙が光っている。そして、ハーンもまた言葉の意味はわからなかったが、日本人の生活の悲しさと楽しさ、そして苦しみが女の声と共に心にしみてゆくのを感ずるのであった。

ハーンは、しみじみと思った。美しい旋律には、民族の違いや時代を越える力があると――。美しい旋律に感動するのは、人が前世で、やはりその旋律を聞いたこと



H. I. S. H. I. S. M. K. A.

があるからではないか。子供は、生まれながらにして母親の愛撫の声を理解する。

人生は一回きりのものではない。人は、本質的な記憶だけはしつかりと無意識の底に沈ませて、何回でも生まれ変わる。そして、美しい旋律が、愛の言葉が、彼らきくものの前世のいのちをよみがえらせる。

ハーンの胸に、幼い頃に別れた母、ローザの面影がよぎった。ローザはたしかにハーンの胸の深みで生きている。すべては、いま生きている人びとの胸でよみがえり続けるのだ。

ハーンの胸に、東洋哲学に根ざしたひとつの思想が育ちはじめた。輪廻——。RINNEノそれは、なんと美しい響きをもった言葉であり思想であることが。

セツがさしだすいくばくかの小銭を受け取り、門づけの親子がハーン家の戸口を立ち去り、群衆もまた思い思いに散っていった時、ハーンはセツに云った。

「ママさん。私、あす隠岐の島にまいることよろしいと思いません。あなた、そう思いませんか？」
セツの顔が一瞬あかるみ、そのまるやかな顔が、さらにほころんだ。

「パパさん。どの街にも美しい心の人がいます。長く住んで、それを見つけないこと、パパさんの勤めと思えます」

ハーンは、深くうなずいていた。このまま隠岐の島へそしてどこか遠くの土地へ気のむくままに移り住んでいったならば、いつか妻子を捨てて日本を去る結果になりかねない。

ハーンは、島的女ローザを捨てた父を思った。生涯ハーンは父の非情さを憎みつづけているではないか。そして、息子である彼もまた、父と同じ仕打ちを日本の女にするようなことになるかも知れない。苦しくても、いまこの土地に踏みとどまって堪えるのだ。ハーンは、何度も自分の心に云い聞かせるのだった。

セツは、ハーンの胸にうずいている苦しみを痛いほどに感じた。そしてそんな時、彼女はハーンと結ばれる以

前の暗い絶望の日々を思い出すのだった。

セツにとって、ハーンは初めての夫ではない。九年前セツは養女にやられていた家で養子婿を迎えている。セツの養女にやられた家も婿の家も由緒ある家柄の士族であったが、明治以後は没落して貧しく、その上セツの養家では、養父が寝たきりの病人であった。

セツの最初の夫は、いくら働らいても借金ばかりかさんでゆく養家での生活に希望を失い、家を飛び出して大阪へ逃げてしまったのであった。

「道頓堀の橋の上で身投げしようとおもうて、だいぶ長いこと立っとなつたけど、国に待っていないさる父さん母さんと思うと、それもできなんだ」

後年、夫をつれもどそうと大阪へ出かけて行つた時の思い出を、そんなふうにセツは語っている。

明治二十三年一月、行方不明のままの先夫との離婚が成立、その年の暮れ生家である小泉家にもどつたセツは松江中学校の教頭、西田千太郎の媒酌で、ハーンのもとに嫁いだのであった。

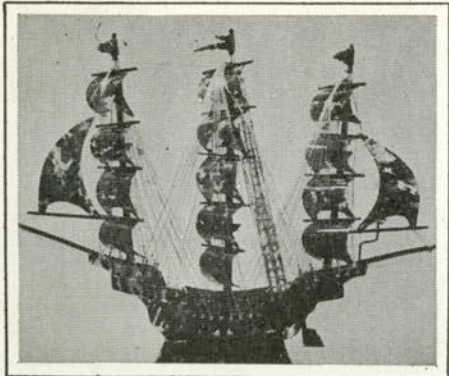
先夫にくらべ、ハーンは責任感の強い信頼できる男であるとセツは思っている。

「ヘルンはごく正直者でした。みじんも悪い心のない人でした。女よりもやさしい親切なところがありました。ただ幼少の時から人にいじめられて泣いてまいりましたから、いつこく者で感情の鋭敏なことはおどろくほどでした」

それが、セツから見たハーンの人である。

暗いトンネルの中をゆくような人生をくぐり抜けてきたハーンとセツであった。そしてセツはいま、彼女の持っている能力のすべてを注ぎこんで、ハーンとの暮らしをしあわせなものに築いてゆきたいと思うのであった。事実、セツとの幸福な家庭生活がなかったならば、ハーンは日本に永住することにならなかったであろう。

(つづく)



センスあふれる
べっ甲専門店

太田 鼈甲店
元町1丁目 TEL (33) 6195



世界の品々は
サノへでお選
びください。



元町2丁目
(33) 4707~8



創作ハンドバッグ
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町

ACCESSORIES

イクシマヤ

TEL. (33) 2415・2416



高級紳士服専門店

神戸テラー

さんちかメンズタウン
生田区北長狭通2(阪急西口)

TEL (33) 0388

TEL (33) 2817・3173

神戸三宮生田筋③35797

山名洋服店

高級紳士服



男らしさがにじむ マンヤマの紳士洋品



高級洋品

マンヤマ

神戸元町1丁目
TEL (39) 4 8 8 0



オード・フォーカス-C

オード・フォーカス-

KOBEの街と

ともに40年——

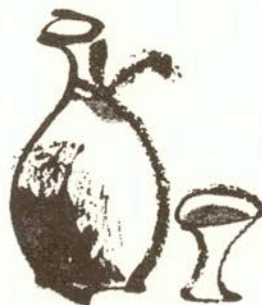
ユニークな香りの

高級ヘヤートニックです

三星堂

発売元 / 神戸

TEL 大代表23-4341



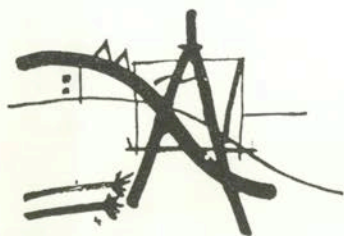
灘の生一本

清酒

大黒正宗

額縁絵画・洋画材料

室内工芸品



末 積 製 額

三宮・大丸北
トア・ロード
☎1309・6234

創業明治二十八年

履物の山下

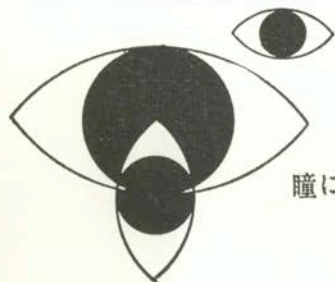
古い老舗に新しいセンス

神戸 三宮センター街

TEL ☎ 0256

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店



瞳に美しさを保つ

スポーツに

美容に

現代の科学が生んだ

コンタクトレンズ

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・8361

高級きものとおび
しみぬき・活洗専門店



平野

つるや本店

兵庫区神田町125

(家庭裁判所前東1丁)

TEL ☎ 6932



亀の井 亀井堂本家

神戸三宮トーアロード
本店 33-0001
電話 南店 33-1616



おとし
てんぷら

榮 彌

営業時間

A. M. 11.30 ~ P. M. 9

本店 三宮町二・朝日会館前
TEL 5772
支店 さんちか味ののれん街
TEL 5233

(毎週月曜日休み)

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

三宮
ムサシ
でんわ 三三七七
三〇八



ご贈答に風味豊かなカステーラ
長崎堂本店

本店=大橋町5大五ビル (61) 0553-4
新開地店=松竹座前 (56) 2423
元町店=元町 6 (34) 4130
さんちかスイーツタウン (36) 3625



松田 真理子
生田・中山手2丁目89・1階 TEL 33-3052



洋酒の店 キャンテイ
Chianti
榊 晴夫 TEL (39) 3060
213KITANAGASA-DORI IKUTA-KU KOBE

SNACK BAR
マゼラン



生田区加納町4丁目 TEL 39-2366

The
Cosmopolitan
Valentine F. Morozoff

コスモポリタン
チョコレート・キャンデー

神戸本社	神戸市生田区三宮町1丁目170	電話 33-5304
神戸直売店	神戸市生田区三宮町1丁目	電話 33-1217
大阪堺筋店	大阪市東区淡路町2丁目	電話231-6979
大阪心斎橋店	大阪市南区安堂寺橋通4丁目	電話251-4182
東京銀座店	東京都中央区銀座8丁目	電話571-2303
東京新宿店	東京都新宿区角筈1丁目	
	新宿ステーションビル地下2階	電話352-2436
千葉駅ビル店	千葉市新町千葉駅ビル名店街	電話 7-2534



ビードクトル 探訪記<8>

小松 益喜

<画家・新制作協会>

父が酒屋をやっていて、晩年まで造り酒屋をやった人だったので、アルコールには小さい頃からなじんでいる。

父親とまる二日間かかって一斗樽を開けた昔がなつかしく、酒を飲むのも親孝行の一つだと大いに楽しんでいる。

ビールは何といっても冬ストーブをたいたそばで飲むのが一番うまい。外でもよく飲むがただ、好きなのに、63才という年令も考え、あまり昔のように深酒はしご酒はひかえているし、楽しく飲むには、それだけの準備が必要である。まず

- 少量であっても毎日飲まないこと。
- 大いに油っこいものを食べること。
- 飲んだあとは必ず水を飲むこと。

この水を飲むということは、酒を飲む人の健康法に大いに進めたい。

フランスに行っていた時、欧州ビールもずいぶん飲んだが、やはりビールは日本のビールである。

連載小説 第九回

兵庫の女

武田 繁太郎
え・松岡 寛一

124



第九章

いつまでたっても商売人に徹しきれない利市にひきかえ、まつをは、店は良人や番頭たちにまかせ、三日にかけず京都の間屋筋へでかけたり、地元の銀行と融資の交渉をしたり、いつときも席のあたたまるひまがないほど多忙な明け暮れをつづけていた。

まつをはすでに三十の働きざかりを迎えていた。

この十数年の歳月は、彼女に不敵なまでのたくましい商魂をうえつけていた。まつをはの商法は、どこまでも強気であった。買いの一手でおしまくっていくのである。

平梅富次が舌をまくほど大胆な手をうった。時代の波がいつそう彼女に味方していた。

久留米がすがすがしいどきだと見抜くと、まつをは、京

★あらずじ

まつをは15才で広島の家をとりびだし、神戸に出て鍾紡の女工となり、バンドル工の安福利市と職場結婚した。若い二人は社宅に住んで共稼ぎをはじめた。まつをはのかたわら、寝る間も惜しんで内職に精を出し二百円を貯め、それを元手に社宅をまわる呉服の行商を始めた。

反対する利市を強引にとぎふせて、ひらけゆく兵庫の御崎本町通りに小さな呉服の店「かたち屋」をもって数年。年号も新しく大正の世となり、かたち屋も今では押しも押されもせぬ大店となっていた。

しかし、店の実権をがっちり握り、押金主義ともみえるまつをはのやり方に、利市はどうしてもなじむことができず、彼の心の奥には人しれぬわだかまりがあった。

都の間屋を素通りして、じかに九州の織元の間屋までかけていった。そして、千反、二千反と、小売り業者に
しては桁はずれの取り引きをこころみだ。

むろん、強気の買いっぱうでは、相場が下落する
ときには、当然それだけの欠損をかぶらねばならない。だ
がまつをはひるまなかつた。

「いまは、売りよりも買いや」

かつて十数年まえ、平梅富次は、商売をはじめよう
というまつをに、こう教えてくれた。「呉服の商売は十年
が勝負や。ほんまの勝負は十年たたとわからん。十年
のうち、四年損して、六年で儲けたらええ。その二年の
差が、ほんまの儲けや」

四年損して、六年儲ける。この信条を、まつをは、彼
女流に墨守していたのである。

相場は下落し放しということはない。やはり、十年が
勝負であった。十年を区切れれば、自分の買いが絶対に勝
ちぬくということを、彼女は、その十年の経験でつき
りと見抜いていた。

ヨーロッパでは新しい戦火がまきおこっていた。その
大戦ブームの余波をうけ、好景気の波が日本全国にひろ
がっていくにつれて、まつをはの強気のあきないはますま
す図に乗っていった。

むろん、呉服の商売だけではない。あらゆる商売が気
違ひじみた戦争景気の波にうかされていた。

港町の神戸では、勝田とか内田とかといった船成金が
一挙に巨万の富をつかみ、山の手や須磨に内田御殿とか
勝田御殿とかいう一町四方もあろう豪壮な邸宅をかま
え町全体が異様な活気にわきたっていた。

成金どもは、暗がりでも下駄をさがすのに、百円札に火
をつけ、その燃えるあかりでさがしたとか、その下駄の
裏の金具を純金で作らせたとか、馬鹿げた伝説が生れた
のもこのころである。

一般大衆のあいだでも、獅子舞いのようにやたらに金
齒をひかせたり、金びかの懐中時計をぶら下げたり、

純金の印台付きの指輪をはめたり、といった風潮が生れ
た。

かたち屋呉服店の飾り窓にも、五十円也の正札をつけ
た丸帯がかざられてあった。だが、いかに一般の金使い
が荒っぽくなったとはいえ、御崎あたりの下町では、さ
すがに大枚五十円もする丸帯に手をだす酔狂な客はいな
さそうにみえた。店の飾りにしても、番頭たちはいささ
か持てあまし気味であった。

「やつぱり、場所柄を考がえんとあきまへんなあ。ひや
かし客もつきまへんわ」

番頭の一人が音をあげると、まつをは、そんな番頭の
弱気を跳ねかえすように言った。

「阿呆やな、あんたらは。だいたい、五十円なんて中途
半端な値をつけるさかい、いつまでたっても買手がつか
んのや」

「中途半端とおっしゃったかて、こつちにしたら、あれ
でも思いきった値をつけたつもりでっせ」

「いやいや。まだあかん」

まつをは即座に首をふり、自信ありげに言った。

「よろしいか。あの五十円の正札をはずして、二百円の
正札にとりかえておきなはれ。そしたら、三日のうちに
かならず売れる」

番頭は啞然とした面持ちできいていたが、女主人の手
言どおり、三日目の夜、まつをはが京都の間屋から帰って
くると、番頭はいつそう啞然とした面持ちで、丸帯が二
百円の正札のまま売れたと、報告した。

おなじ丸帯でも、五十円なら売れず、二百円に値上げ
したら、たちまち客足がついた、とそんなかたち屋呉服
店の好景気も、やがて世界大戦がおわり、つづいて大戦
ブームの反動のように神戸市内に米騒動がおこり、そし
て、一粒種の息子の良治が生れる直前までつづいていっ
た。

利市は、結婚してすでに二十年ちかく、妻に懐妊のき
ざしのみえぬところから、夫婦のあいだにはもう子種は

三十をすぎたの初産で、生れるまで良人の利市も気が
気ではなかったが、それでも、四十の声をきいて、思い
がけなく恵まれた子宝に、彼は狂喜した。

まつをは産褥に二十一日ふしただけで、床上げの祝い
をすますと、その日からもう店にでていた。そして、鐘
紡の社宅のかつての同僚のつてで、若い元気のいい乳母
を雇ってくると、良治はこの乳母にまかせきりにして、
商売に熱中していった。

嬰兒に乳を与えぬため、まつをの胸はいつも脹らみ放
しであった。京都の間屋へでかけていくときなど、胸に
たつぷりガーゼをあてていくのだが、それも、途中の車
内でガーゼはびしょびしょに濡れてしまう。まつをはい
そいで便所にかけてこむと、着物の襟はだけ、手で乳房
をもんでは、乳をふくませたガーゼを窓外に投げ捨てて
いった。

だが、利市の良治にたいする溺愛ぶりは、よそ目には
異常なほどであった。店の帳場にすわっていても、奥の
座敷から良治の泣き声がきこえてくると、利市は一瞬も
おちついてはいられぬ風情であった。

「どないしたんやろ？　どこぞ具合いでもわるいのとち
がうか」

と、そんなことをつぶやきながら、そわそわと立ちあ
がり、奥の間から良治をかかえてくると、帳場でけんめ
いにあやしつづけた。生れたばかりの嬰兒でも、実の母
と乳母の違いは、本能的に嗅ぎわかるものなのか。良治
は、まつをがわざわざ雇った乳母にはどうしてもなじも
うとはしない。乳房をふくませても火がついたように泣
くばかりだった。ところが、利市が抱くと、ふしぎにび
たりと泣きやみ、そのまま、すやすやと気持ちよさそう
に寝いってしまうのである。

しかし、まつをは、そうして利市が店の間にまで良治
を連れだしてくるのを、いつも露骨にいやがった。

「また子供をなぶつとつてや。いったい帳場をどこやと
思うてなはるのや？　だらしない。さあ。あたしにか

ないものと、なかばあきらめていた。

まつをは娘のころから肉つきのいいからだに似あわず
冷え性であった。それで、良治が生れる一年まえ、医者
にすすめられ、思いきって半月ほど城崎へ湯治にでかけ
ていった。

彼女は、結婚してはじめて、いや、生れてはじめて、
のんびり湯につかっていた。この城崎行きが効き目があ
ったのか、ほどなく良治を身ごもったのである。



★神戸の催物のごあんない★

▷ウェスタンからモダン・フォークソングまで

10月19・20日 19日PM7・00～PM9・30 20日PM6・30～PM9・00 出演/ジミー時田とマウンテンプレイボーイズほか 主催/神戸労音 会員券 於神戸国際会館

▷'66兵庫県芸術祭

10月21日 PM6・30～PM9・00 出演/ワルシャワ・フィルハーモニー交響楽団 a ¥2,000 b ¥1,700 c ¥1,300 d ¥1,000 e ¥800 主催/兵庫県 於神戸国際会館

▷NHK交響楽団演奏会

10月22・23日 PM6・30～PM9・00 会員券 主催/神戸労音 於神戸国際会館

▷神戸土曜会合唱団20周年記念リサイタル

10月23日PM2・00～PM4・00 ¥300 主催/神戸土曜会合唱団 於神戸国際会館

▷俳優座公演"アンナ・カレーニナ"

10月24・25・26日PM6・15～PM9・30 会員券 出演/河内桃子・東野英治郎・仲代達也ほか 主催/神戸労於神戸国際会館



▷ジャズの競演

10月31日 PM6・30～PM9・00 会員券 出演/薩田憲一とディキシキングス 会員券 主催/民音 於神戸国際会館

▷兵庫県文化賞フェスティバル

11月3日PM1・00～PM6・00 無料 主催/兵庫県 於神戸国際会館

▷日本青年会議所全国大会前夜祭

11月4日 出演/ダークダックスほか 主催/神戸青年会議所 於神戸国際会館

▷兵庫県大学合同演劇祭

11月12日PM2・00～PM9・00 ¥300 出演/関学・甲南大・松蔭女子短大 於神戸国際会館

▷市民民謡祭

10月18日 AM9・00～PM9・00 各区の婦人会ほかが出演 主催/市民祭協会 於市立体育館

▷刀剣と南蛮美術展

11月1日から25日まで 大人 ¥50 小人 ¥20 於市立南蛮美術館 (毎週月曜日休館)

して頂だい」

そう言って、利市の腕のなから良治をひったくるようにして、さっさと奥の間へ連れこんでしまう。

宮詣り。初節句。初誕生と、かたち屋の跡取り息子にふさわしい祝儀が、そのつど派手につづいていったが、乳母の乳も満足にのまなかったせいか、良治はひよわな子に育った。そして、三つ四つのころになると、父親の利市と生き写しのように似はじめてきた。性質もおとなしく、一見して華奢な体質まで、良治は父の血をそのままうけ継いでいるかのようであった。

それがまた、いつそう利市の愛情をかきたてたようであったが、良治のほうでも、この父親にはよくなつき、片時も利市をはなそうとはしなかった。

「オトウ、オトウ」

と、まだ十分舌のまわりきらぬころから、良治は、ちよこちよこと店の間にかけてきては、母親に叱られるながらも、懲りもせずに父親にまつわりついた。

利市は、まつをが店をあけていなくなると、そのわずかな留守のまにでも、良治を肩車にのせて、ちかくの和田宮神社へでかけていった。

この神社の境内には、幾百羽もの鳩がたむろしていた。良治がどこよりもよろこぶ遊び場であった。利市はひろい境内にはいると、肩から良治をおろし、

「さあ。良。おとうさんとふたりで遊ぼうなあ」と、鳩の群れを追って無心にとびまわっていく愛児の姿を、いつも目をほそめてみはれるのである。

ここだけが、まつをの目のまつたくとどかぬ、ふたりだけの別天地であるといえた。

だが、そんなひそかなたのしみも、ながくはつづかなかった。ものの小一時間もたつと、まつをの帰宅が気にかかりだすのである。

「良。ぼちぼちかえろうか」

利市が、遊びたわむれている良治の手をとると、良治はその手をすりぬけるようにして、

「オトウ。もつという、もつという」

と承知しない。そこで、やむなく利市は良治のからだをむりやり抱きあげ、

「そんなわがまま言うたらあかん。な、またあしたや早よう帰らんと、おかあちゃんに叱られるやないか」

そう言って、ばたばたあばれる良治を肩車にして、小走りに帰っていくのである。

△次号につづく▽

PHOTO POEM

魚と奇蹟

私は顔のない女

水溜りに顔を落した女

白い微光に導かれ

廃屋を遊泳する

一匹の魚

詩／福井久子
カメラ／緒方しげを





コスモポリタン神戸のなかで文化・社会奉仕に一役買おうと生まれた女性だけのグループ。神戸・インターナショナル・レデイス・クラブ*がそれである。

外国人を含めた三十名の会員は毎月一回例会を持ち、社会奉仕はもとより国際的な女性になるために、積極的な活動が続けている。施設のこと、私たちの慰問や街頭募金に







銘店抄その29

陳舜臣（作家）

スギヤ

トア・ロード

市電三宮神社前東行きの停留所のあたりにいると、歩道がわにベンチがあるのに気づくだろう。それも葉や歯みがきのけばけばしい広告つきの野暮ったいやつではない。金属製の透かしの背に、ひかえめに『スギヤ』と字がはいっている。そばにおなじようにしやれた花籠に四季の花をいけてある。それも通行人にたいするスギヤのサービスのなだ店へはいるまえに、こうした心づかいに、まずはのぼしたものをかんじる。

婦人洋品の店に一番大切なのは、そんなムードではないだろうか。こじんまりしているが、スギヤは女性のショッピングの悦びを、まろやかにうけいれる店である。

現代女性が身につける品をえらぶとき、最も気にするのは、『個性的』という点であろう。ふるい店歴をもつスギヤは、そこはよく心得て、仕入れの品も粒選りである。神戸の絵地図入りハンカチなどのように、この店特製の品もすくなくない。

買物ぎらいの男性でも、妹を連れてショッピングに行きたくなるような店である。

（写真左から杉浦元子さんと筆者）



銘店抄その30

陳舜臣（作憲）

フナキヤ

元町通3

元町三丁目のフナキヤは、紳士洋品の店としては草分け的存在である。改装した店のドアはガラスに格子がはいっていて、みるからに本格派ムードだし、店内の照明は一切蛍光灯を使っていない。そして典雅なシャンデリアがさがついで、店を縁どるように植木鉢からみどりの蔓が唐草模様をえがいている。

現代のような生産過剰の時代にあつては、商店経営のポイントとは、洪水のような商品群のなかから、自分の店の客層にマッチするものを選び出すことにあるだろう。

その点、フナキヤは熱心な社長の鋭いセンスのフィルタ―にかけられた品が店頭にならんでいる。社長の年が若いだけに、年配の人の嗜好がつかみにくいのではないかと思つたが、それはよい心配であつた。

「ゴルフですよ」と若社長は言う。ゴルフを通じて、年配の人たちとつき合い、年配の人の心理や好みを抜け目なく観察して、経営の参考にしていくそうだ。

ただのしにせではない。新本格派とでもいふべきであろう（写真左から安達昭三社長と筆者）

Hino

高性能の日野

日野
コンテッサ 1300

兵庫日野自動車株式会社

大代表 TEL ☎ 2281





神戸百貨会

Kobe High Class Shop Group

*宝飾品 Jewel・Pearls

- ①宝飾 御木本真珠店 国際会館1階
Mikimoto Pearls International House
②宝飾 田崎真珠店 新聞会館秀品店
Takasaki Pearls Kobe Shinbun
③宝飾 北村真珠店 元町通二丁目
Kitamura Pearls 2-motomachi
④宝飾 タジマジュエル 元町通二丁目
Tajima Jewel 2-motomachi
⑤時計と宝石 美田時計店 元町通三丁目
Mita Watch Shop 3-motomachi
⑥宝飾 神戸宝石 元町通三丁目
Kobe Jewel 3-motomachi
⑦真珠・毛皮 さんちかタウン
Pearl Fur & Ladies' 山本通4丁目1212-6

*紳士洋服・洋品 Tailor & Men's Shop

- ⑦紳士服 柴田吉洋店 元町通四丁目
Tailor Sibata 4-motomachi
⑧ネクタイ 元町バザール 元町通四丁目
Motomachi Bazaar 1-motomachi
⑨紳士服 三恵洋服店 元町通四丁目
Tailor Mituei 4-motomachi
⑩男子洋品 神戸屋 元町通二丁目
Kobe-ya Men's Shop 2-motomachi
⑪男子洋品 フナキヤ 元町通三丁目
Funakiya 3-motomachi
⑫紳士服 十字屋洋服店 元町通五丁目
Tailor Jujiya 5-motomachi
⑬洋品雑貨 サノヘ 元町通二丁目
Sanohe 2-motomachi
⑭ワイシャツ 神戸シャツ 大丸通二丁目
Kobe Shirt In front of Daimaru
⑮紳士服 洋服の幹渡 元町通二丁目
Watanabe Center-Gai
⑯衣生活品 ニッケショールーム 元町通三丁目
Nikke Showroom 3-motomachi
⑰紳士服 神戸テーラー 元町通二丁目
Kobe Tailor 2-motomachi
⑱若人の服飾 マツ 三宮本店・アロード店
Mac Men's Shop 新聞会館・姫路店
⑲紳士シャツ 大和屋のシャツ Center-Gai・京都店
Yamatoya Shirt Center-Gai

*婦人洋装・洋品 Ladie's Shop

- ⑲帽子 マキシム トアロード
Maxim Tor Road
⑳服飾雑貨 エスターニュートン トアロード
Esther Newton Tor Road
㉑洋品 スギヤ トアロード
Sugiya Tor Road
㉒ハンドバッグ シラサ 元町通二丁目
Shirasa 2-motomachi

- ㉓洋傘 オカダ 元町通三丁目
Shoer Okada 3-motomachi
㉔洋装 マスヤ センター街・元町三
Masuya 3-motomachi
㉕婦人服飾 ベニヤ センター街・さんちかタウン
Beniya 095528-9・091204
㉖輸入服地 マルゼン 三宮一丁目53
Maruzen Kutsa Street 096901
㉗婦人・紳士 セリザワ センター街・大丸前
Serizawa Center-Gai
㉘毛皮 ベニーモ皮店 国際会館一階
Bennie Furrier (Furs) 23327
Kobe International House

*装身具・服飾品 Accessary・Dress

- ㉙ベッ甲 太田ベッ甲 元町通一丁目5
Ota Co. (Tortoise-shell ware) 1-motomachi
㉚ハンドバッグ イクシマヤ センター街・大丸前
Ikushimaya Center-Gai
㉛アクセサリー 芸夢 トアロード
Geimu Tor Road
㉜婦人・紳士靴 クロス靴店 トアロード
Cross Shoes Tor Road
㉝婦人・紳士靴 吉岡靴舗 大丸通九丁目90
Yoshioka Shoes In front of Daimaru

*和装 Kimono・Geta

- ㉞呉服 ちんがら屋 センター街
Chingaraya Center-Gai
㉟呉服 みよしや 大丸通八丁目88
Miyosiya In front of Daimaru
㊱衣裳 中川衣裳店 センター街
Nakagawa Center-Gai
㊲衣裳 つるや衣裳店 大丸通六丁目60
Turuya In front of Daimaru

*美容 Beauty Shop

- ㊳美容 美容室あきら 三宮本通り
Akira Beauty Shop Sannomiya-Hondori
㊴美容 マキシム美容室 三宮神社7
Maxine Beauty Shop Sannomiya-Jinja-Mae
㊵コンタクト レンズ 国際会館一階
International Contactlens Laboratory Kobe International House

*ボーリング Bowling

- ㊶ボーリング 神戸スターレーン 市役所西側5
Kobe Starlane West City Hall

*美術・工芸品 Art

- ㊷美術 元町画廊・若木屋 元町通一丁目9
Motomachi Gallery 1-motomachi
㊸画材・顔料 末積製額 トアロード
Suezumi Tor Road
㊹工芸 磯川工芸店 トアロード
Isokawa Tor Road
㊺美術陶磁器 淡洲堂 センター街
Tanshudo Center-Gai
㊻新古典美術 播新 元町通三丁目6
Harishin 3-motomachi

*家具 家庭・文化用品 Furniture・Family

- ㊼家具 永田良介商店 大丸通三丁目7-9
Nagata Ryosuke Shop In front of Daimaru
㊽運動用品 ヤノスポーツ トアロード
Yano. Sports Tor Road
㊾玩具 カメヤ 元町通三丁目
Kameya Toy Store Center-Gai 3-motomachi
㊿メガネ 神戸眼鏡院 元町通三丁目
The Kobe Optical Co., Ltd. 3-motomachi
㊿カメラ コヤマカメラ センター街
Koyama Camera Shop Center-Gai
㊿儀式用品 富田屋 元町通四丁目
Tomitaya 042334・6927
4-motomachi
㊿カバン 大上靴店 元町通一丁目2
Oue Trunk Co. 1-motomachi
㊿カバン 高橋靴本店 元町通一丁目2
Takahashi 3-motomachi
㊿電器製品 元町電機 元町通六丁目
Motomachi Electric Co., Ltd. 045847・6581
6-motomachi
㊿薬品 三星堂薬局 元町通六丁目
Sanseido Pharmacy 045330・3355
6-motomachi
㊿メガネ 服部メガネ店 元町通一丁目23
Hattori Optical Shop In front of Daimaru

*菓子・喫茶 Cake・Tea-room

- ㊿洋菓子 風月堂 元町通三丁目5
Fugetsudo 3-motomachi
㊿瓦煎餅 亀井堂本家 トアロード
Kameido Honke Tor Road
㊿菓子 雁治郎飴本舗 多聞通橋公前
Ganjiroame-Honpo Tamon-Dori
㊿洋菓子 ドンク センター街
Donq Center-Gai
㊿チョコレート モロゾフ 元町通二丁目5
Morozoff 2-motomachi
㊿ドイツ菓子 ユーハイム 元町通三丁目
Juchheim's Ikuta Jinja Mae
㊿洋菓子 ヒロタ 元町通三丁目0
Hirota Confectionery 3-motomachi
㊿洋菓子 ユーハイムコンフェクト 生田前
Yuhaimu Confect Ikuta street
㊿和菓子 二つ茶屋 元町通三丁目5
Futatsuchaya 3-motomachi
㊿菓子 本高砂屋 元町通三丁目7
Hon-Takasagoya 3-motomachi
㊿カステラ 長崎堂本店 元町通六丁目0
Nagasakido 6-motomachi
㊿瓦煎餅 亀井堂総本店 元町通六丁目6
Kameido Sohonten 6-motomachi
㊿瓦煎餅 河南堂 三宮駅山側
Kanando St. Sannomiya-north
㊿チョコレート コスモポリタン 三宮京町筋7
Cosmopolitan Kyomachi Street
㊿瓦煎餅 菊水総本店 橋公社正門前
Kikusui Sohonten In front of Nanko
㊿喫茶 UCウエシマコーヒショッ さんちかタウン
0955677
㊿洋菓子 アルモンド 元町通二丁目3
Almond 2-motomachi
㊿チョコレート ゴンチャロフ さんちかスイーヅタウン
Goncharoff 0935633

*和洋料理 Eating House

- ㊿ステーキ キングス・アームス 市庁舎南
King's Arms Tavern Isobe-Dori
㊿焼・日本料理 竹葉亭 阪急三宮
Chikuyotei Sannomiya Hankyu
㊿天婦羅 お可川 元町通三丁目
Okagawa 3-motomachi
㊿ふぐ料理 一富士 通川トンネル東
Ichifuji Minatogawa
㊿寿司 本成駒家 三宮本通り6
Hon-Narikomaya Sannomiya Hondori
㊿とんかつ 武蔵 三宮三丁目7
Musasi Center-Gai
㊿スペイン料理 カルメン 阪急西口上
Carmen Hankyu West Exit
㊿欧風料理 ハナワ Grill 元町通五丁目2
Hanawa Grill 5-motomachi
㊿ビヤ・ホール ニュー・トーキョー 生田柳筋
New Tokyo Ikuta Yanagi Street
㊿イタリア料理 イタリ ア 三宮本通り6
Italia Ristorante Ikuta Street
㊿軽料理 蛸の壺 元町通三丁目3
Takonotsubo 1-motomachi
㊿レストラン コラル キタノ 北野クラブ隣上
Coral Kitano 22251
1-Kitano-Cho
㊿天ぷら・寿司 栄 宮町二丁目金館前
Higashi Sakaeya 5772・5674
2-Sannomiya
㊿寿司 又平 生田神社前
Matahei Ikuta Street
㊿神戸肉 大井肉店 元町通六丁目
Ooi Beef Shop 041046・4780
6-motomachi
㊿ビヤ レストラン ニューオリエント 三宮ビル地下
223124

*クラブ・料亭 Night Club

- ㊿料亭 松乃家 花2785・6788
Matsu no ya Hanakuma
㊿ナイトクラブ 北野クラブ 北野2丁目5
The Kitano Club Kitano-Cho
㊿クラブ くらぶ花くま 花5129
Club Hanakuma Hanakuma

*ホテル Hotel

- ㊿ホテル 神戸オリエンタルホテル 京町筋1丁目25
Oriental Hotel 25-Kyomachi
㊿ホテル 六甲オリエンタルホテル 六甲山
Hotel Rokko Oriental Mt. Rokko
㊿ホテル オリエンタルホテル舞子ヴィラ 舞子776001-3
Oriental Maiko Villa Maiko
㊿観光旅館 有馬温泉(東有馬)古泉閣 神戶
Kosenkaku Arima

*商社 Trading House

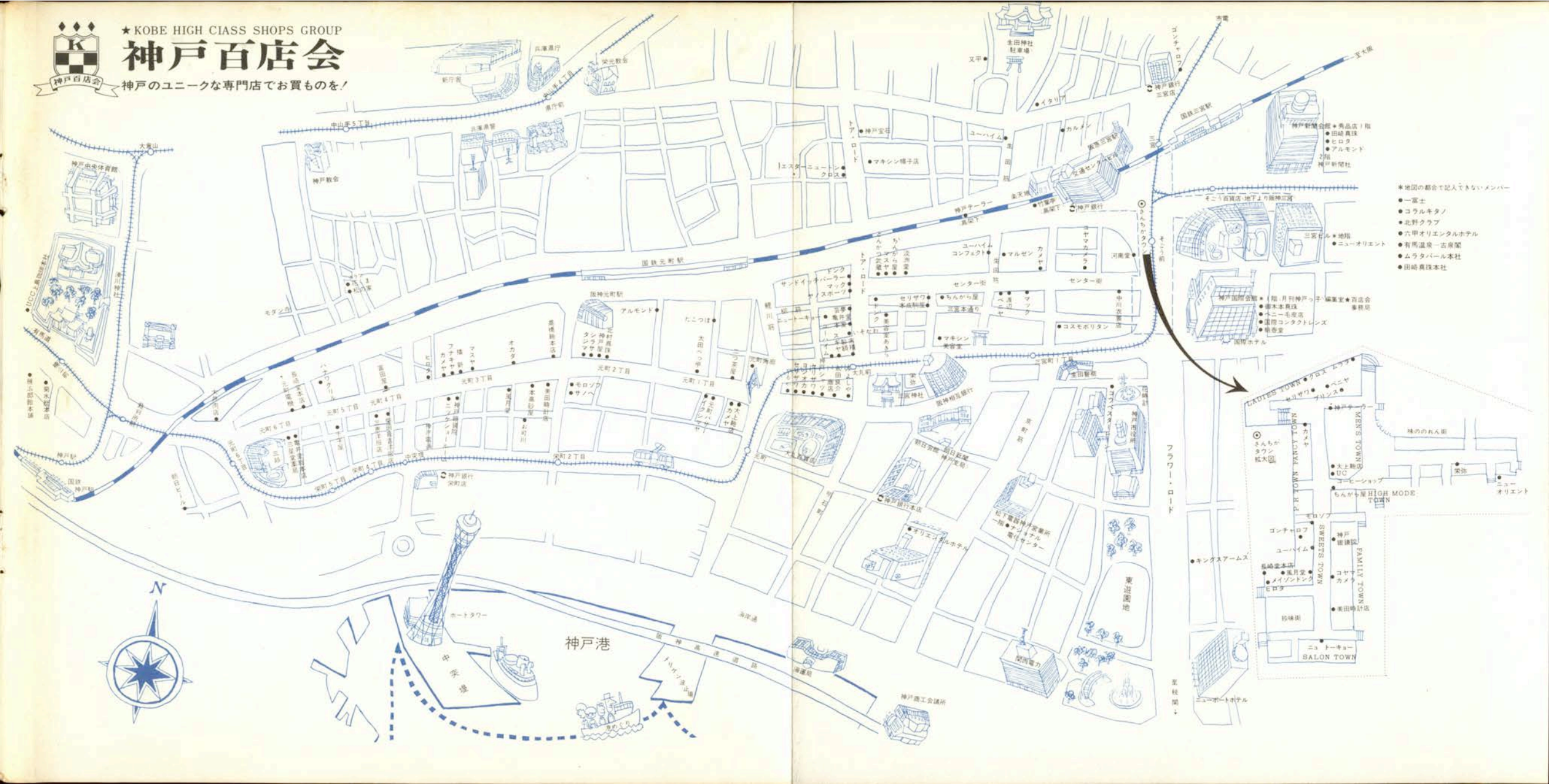
- ㊿ビール 朝日麦酒 K. K. 相模生町
Asahi Beer Aioi-Cho
㊿電化製品 ナショナル電化センター 京町筋8丁目1
National Electric Center Kyomachi-Suji
㊿銀行 神戸銀行 本店 生田浪花町
Bank of Kobe Naniwa-Cho
㊿珈琲・紅茶 UCC上島珈琲本社 神戶駅前
直輸入 043606



★ KOBE HIGH CLASS SHOPS GROUP

神戸百貨会

神戸のユニークな専門店でお買ものを!



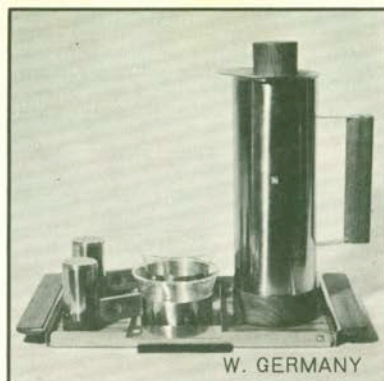
- *地図の都合で記入できないメンバー
- 一富士
 - コラルキタノ
 - 北野クラブ
 - 六甲オリエンタルホテル
 - 有馬温泉一古泉閣
 - ムラタパール本社
 - 田崎真珠本社

フラワー・ロード

至校間↓



ITALY



W. GERMANY



SPAIN



NORWAY

THE FANCY is STICK OKADA

高級舶来雑貨とステッキの店

ステッキ オカダ

三宮生田筋 TEL ③ 1198



AMERICA



CZECHOSLOVAKIA

創立 30 周年



●全国の神戸銀行で出し入れご自由——

● 全店扱
普通預金

● 神戸銀行

東宝・内藤洋子

★ 百店会でのお買物は神戸銀行の
ホーム・チェックをご利用ください。

昭和四十年一月二十日 発行所／神戸市東灘区御幸通八丁目九ノ一 神戸国際会館一階 TEL 277037 頒価一〇〇円
第三種郵便物認可 昭和四十一年十月十五日 発行 毎月一回 大日本印刷株式会社 編集発行／小泉康夫（送料18円）